

将来の国内ターミナル機能イメージ

定期旅客フェリーや定期貨物フェリーが安全に停泊できる岸壁や、旅客が円滑に乗降可能となるターミナル、新たな駐車場や道路などの陸上交通へスムーズに転換可能な海陸の交通結節空間など、港湾機能を再編します。

また、空間形成においては、港・海が感じられる景観形成に配慮し、周辺デザインに溶け込んだ施設や緑化空間を配置し、広々とした空間を確保します。

これらにより、長崎の「海の玄関口」としてふさわしい空間の創出を目指します。



導入機能の具体的なイメージ

① 定期旅客フェリーと 定期貨物フェリー周辺

新たな岸壁や可動橋の配置、また、船で移送する車両が十分かつ安全に停車できるスペースや、旅客が安全に乗降できるボーディングブリッジの配置により、安定的な船舶の離着岸と車両と人の乗降が可能となります。



② ターミナル駐車場周辺

必要駐車台数を備えた立体駐車場をターミナルと接続させ、周辺には、一般車や、バス、タクシーの駐車場だけでなく、自転車や新モビリティなどの乗降場を配置することで、利便性の高い国内ターミナル機能となります。

③ 上屋周辺

新たな上屋施設は、海上定期貨物機能に集約し、機能を高度化させるとともに周辺からの眺望に配慮したデザインとします。また、屋上には、展望場の配置や、緑化休息・プロムナード空間とすることで、海が感じられる憩い空間が形成されます。



将来の観光・交流機能イメージ

長崎港ターミナルの利用者をはじめ、県民の日常的な利用やクルーズ船によるインバウンドも含めた来訪者など、多くの人々が集い、長崎の食や、海や港への景観などを楽しむ臨海部ならではの日常的空間として、また、長崎くんちといった伝統芸能も含めたイベント等による特別なにぎわい空間として、みなとまち長崎のポテンシャルを最大限に活かした交流空間の形成を目指します。



導入機能の具体的なイメージ

① プラタナス広場～ 元船地区北側周辺

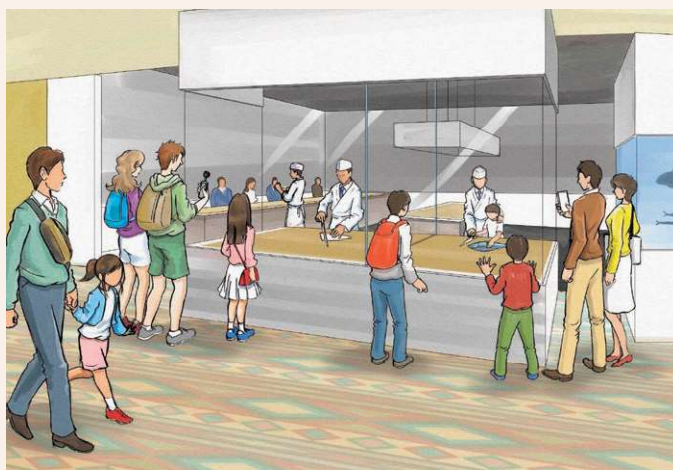
長崎駅から元船地区といったベイエリアにおいて、キッチンカーが立ち並ぶなど、魅力あるウォークラブルな空間が形成され、元船地区内を屋上や、2階以上の施設内で接続することで、回遊性の高い、楽しめる周遊が可能となります。



② おくんち広場周辺

海に開かれ、港・水辺を活かした緑化広場とカフェやキッチンカー、朝市・夜市などで日常的な憩い空間を創出するとともに、長崎の伝統芸能や地産の物販・飲食イベント等を開催できる特別な広場空間を形成することで、人々が交流するにぎわいの場が生まれます。

③ にぎわい施設の内部



長崎の農水産物を飲食できる空間や、魚捌きなど飲食までのコト体験が可能となる空間の配置、そのほか、海との関連性を活かした体験型施設などと、観光クルーズの待合機能と組み合わせることで、地元利用者と県外来訪者でみなとまち長崎の魅力をより体感できるようになります。

官民連携事業手法の導入

整備の方向性を実現していくためには、民間資金や経営能力、技術的能力といったノウハウを活用することにより、効率的かつ効果的、長期的に、より質の高いサービスを提供することが必要であり、そのためには、「官民連携事業（PPP／PFI）」手法の導入を検討していきます。

本構想におけるPPP/PFI手法導入の主な目的

- 目的 1** 観光・交流機能の導入にあたり、土地の有効活用や既存施設の利活用を行い、さらにDXや新モビリティの活用など新技術等の推進による地区間連携も含め、元船地区周辺のにぎわい創出における相乗効果を図っていく。
- 目的 2** ターミナルや上屋、駐車場機能において、民間事業者のノウハウの導入による効率的な運営やそれら機能と一体的となった自主事業の実施を促すことで、港湾機能だけでなく、観光交流機能の効果発現も最大化していく。
- 目的 3** 設計・施工・管理一体型によるコスト縮減効果や、一体的かつ長期的な運営による質の高いサービスを提供する。

PPP／PFI事業に期待する内容

ポイント 1 暮らしを支える国内ターミナル機能等の強化による利便性向上

- 駐車場は、一般車両の必要台数の確保および、修学旅行者やクルーズツアー等の大人数の利用を可能にするバス駐車場の確保。
- DX活用による駐車混雑の低減化および交通渋滞緩和への取組。
- 上屋機能の屋上活用や必要に応じ、2階以上のにぎわい施設を導入することによる施設利用の高度化。

ポイント 3 車両や歩行者にとって優しいみちづくりによる利便性向上

- 各施設間の2階レベル以上での動線接続による回遊性向上や広場を活用したウォークアブルな空間の創出による、歩行者の安全性や利便性の向上。
- ベイエリアやまちなかへの景色も楽しめる新モビリティ等を活用した移動の円滑化。
- 観光コンテンツや移動円滑性を組み合わせた船舶の就航。

ポイント 5 官民が連携した整備、運営、維持管理の実施によるおもてなしの向上

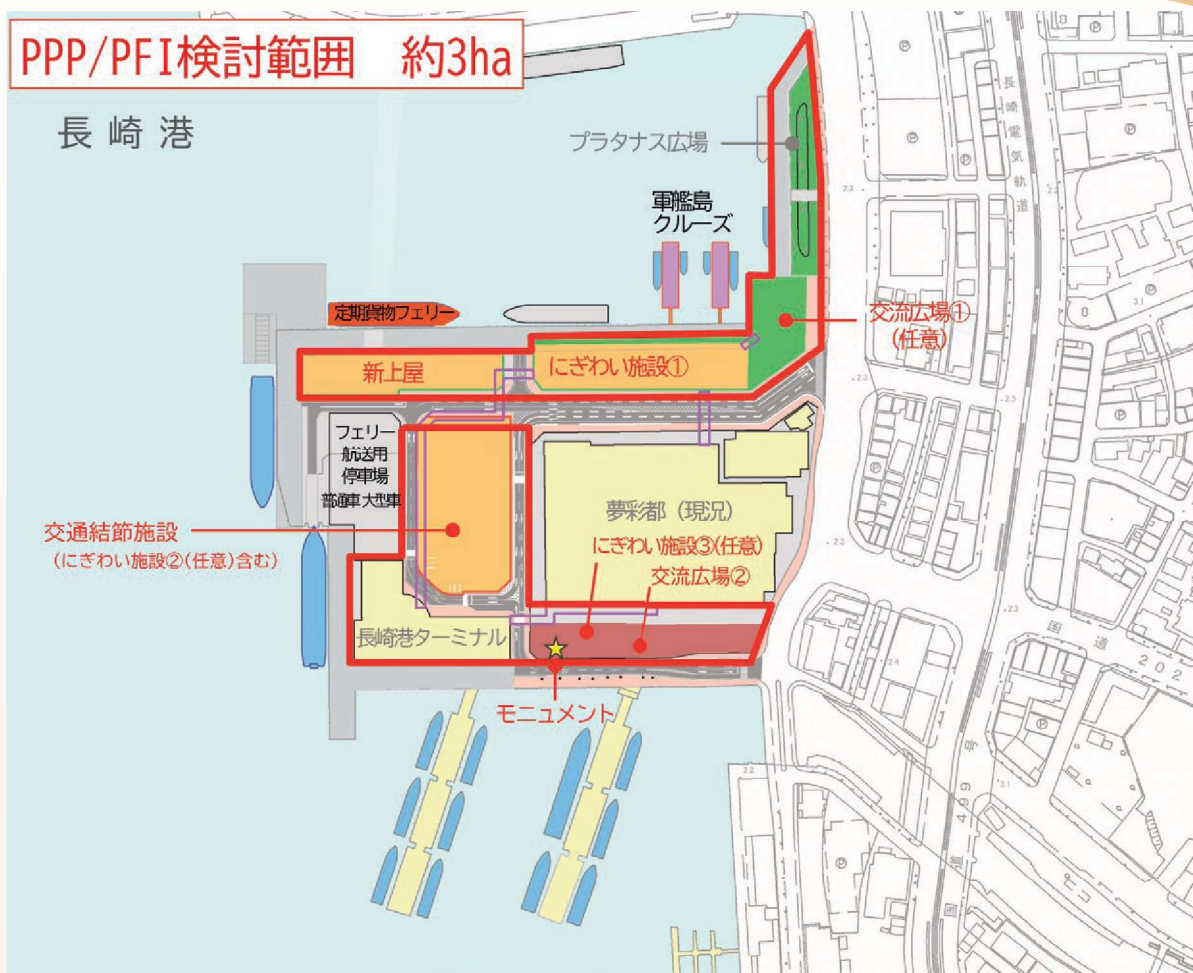
- 民間事業者による一体的な管理・運営により、維持管理コストの低減や利用者満足度の向上。
- 地域と事業者が連携した取組（地域の活性化や次世代への伝承など）。

ポイント 2 臨海部を活かした観光・交流機能等によるにぎわいの創出

- 長崎らしさ・海の魅力を活かした観光交流施設の整備。
- たとえば、地元農水産品を活用した「拠点施設」（お寿司握りや、魚捌き、釣り堀体験等も含め）などの導入により、臨海部ならではの飲食・体験・物販が早朝・深夜も可能なエリアの導入。
- 待合機能を含めた、長崎の海や船を感じる体験型施設の導入。

ポイント 4 港、海が感じられる景観による魅力の向上

- 新たな施設や2階デッキを活用した、「海が感じられる展望空間」や広場空間の確保、夜間景観に配慮したライトアップ等、日中～夜間まで楽しめる施設および、それらの施設整備に関するデザイン性への配慮。
- 周辺との溶け込みやコンセプト、歴史等に合致する「モニュメント」の設置。



実現までのステップ

本整備構想の策定後は、新規事業化に向け、実施計画の検討に着手します。

元船地区は、既存施設の利用者も多数存在することから、整備スケジュールの検討とともに、利用者調整を丁寧に実施します。また、並行して、法で定める港湾計画の変更手続きや、PPP / PFI事業の導入に向けた公募準備、国との事業化に向けた予算調整等を実施していきます。

新規事業化後、概ね10年程度での施設整備完了を目標に、測量や調査、設計を開始し、整備していきます。



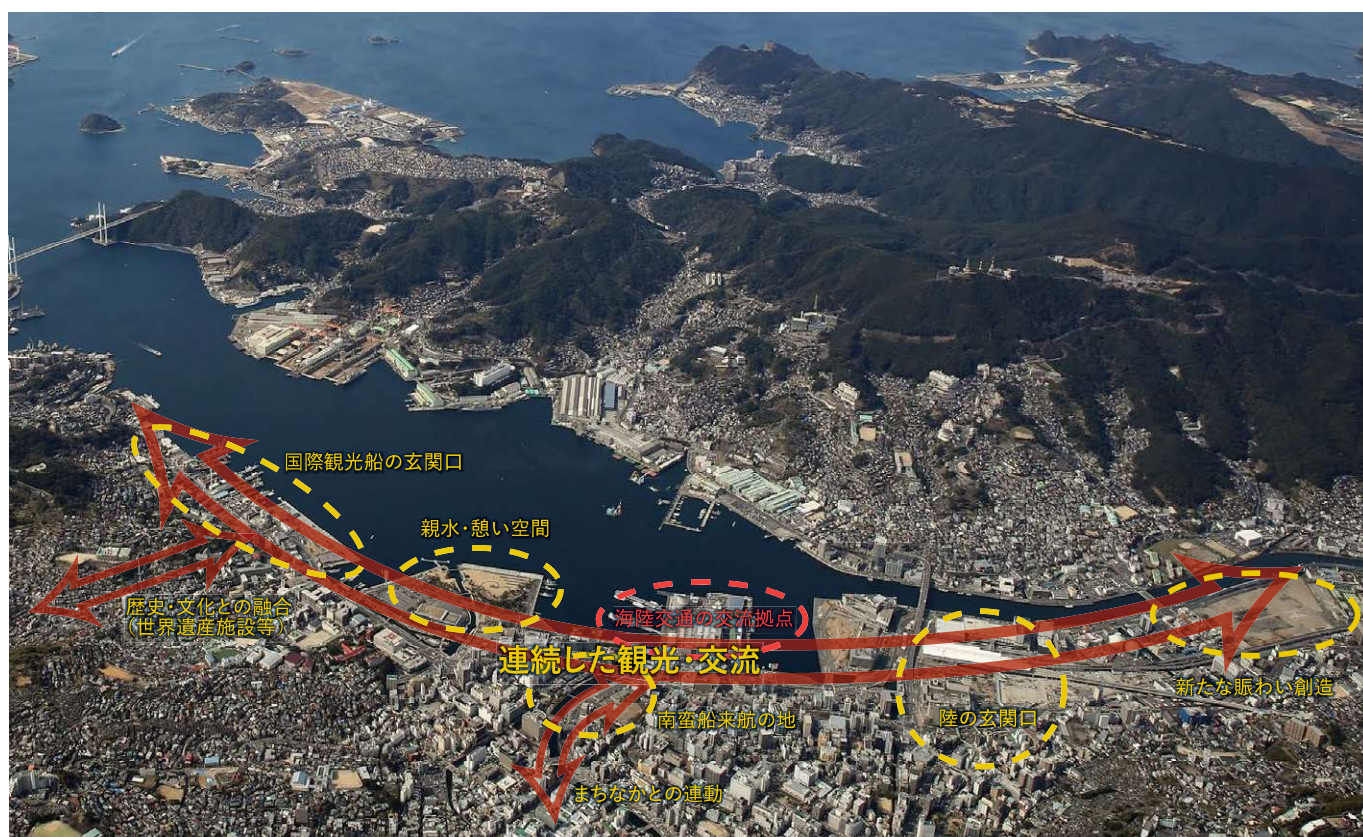
今後の展望

整備構想の今後の広がり

“集い・交わり・繋がる”みなとまちの更なる発展

- 機能的かつ強靱な港湾（物流・人流）機能による暮らしの充実
- みなとを感じる憩いの空間の創出
- 美味しく多様な長崎の食の台所としての賑わい
- まちなかとベイエリアを繋ぐ交通と賑わいの連続
- 人々が日常的に触れる美しいみなとまちの風景
- 溢れるみなとの活気とまちとの相乗効果の創出

長崎港元船地区整備構想は、更なる発展への第1歩として、
様々な人に影響を与え、訪れるすべての人々が主役となる。



本整備構想の策定にあたり、ご尽力頂いた委員・幹事の皆様にこの場をお借りして謝辞申し上げます。

長崎港元船地区整備構想検討会議

	所 属	役職
1	国土交通省 九州地方整備局 長崎港湾・空港整備事務所	所長
2	長崎県	副知事〔議長〕
3	長崎県 文化観光国際部	部長
4	長崎県 土木部	部長〔副議長〕
5	長崎県 土木部	参事監
6	長崎市 文化観光部	部長
7	長崎市 土木部	部長
8	長崎市 まちづくり部	部長
9	長崎商工会議所	会頭
10	長崎県観光連盟	会長
11	長崎国際観光コンベンション協会	理事長
12	長崎旅客船協会	会長
13	長崎地区海運組合	理事長
14	みなとオアシス NAGASAKI 運営協議会	会長
15	元船町自治会	会長

長崎港元船地区整備構想検討会議 幹事会

	所 属	役職
1	九州地方整備局 長崎港湾・空港整備事務所 企画調整課	課長
2	長崎県 文化観光国際部 観光振興課	課長
3	長崎県 土木部 都市政策課	課長
4	長崎県 土木部 道路維持課	課長
5	長崎県 土木部 港湾課	課長
6	長崎振興局 長崎港湾漁港事務所	所長
7	長崎市 文化観光部 観光政策課	課長
8	長崎市 文化観光部 観光交流推進室	室長
9	長崎市 土木部 土木企画課	課長
10	長崎市 まちづくり部 都市計画課	課長
11	長崎市 まちづくり部 景観推進室	室長
12	長崎市 まちづくり部 まちなか事業推進室	室長
13	長崎旅客船協会	会長
14	長崎地区海運組合	理事長
15	みなとオアシス NAGASAKI 運営協議会	会長
16	長崎商工会議所 都市整備委員会	委員長
17	長崎県観光連盟	専務理事
18	長崎国際観光コンベンション協会	事業部長
19	元船町自治会	会長
20	長崎県 水産部 漁港漁場課	課長
21	五島市 地域振興部 文化観光課	課長
22	新上五島町 総合政策課	課長

【事務局】長崎県土木部港湾課

長崎振興局長崎港湾漁港事務所港湾課

長崎港元船地区整備構想

令和6年3月

【編集・発行】長崎県(土木部 港湾課)
電話:095-894-3057 FAX:095-821-9246